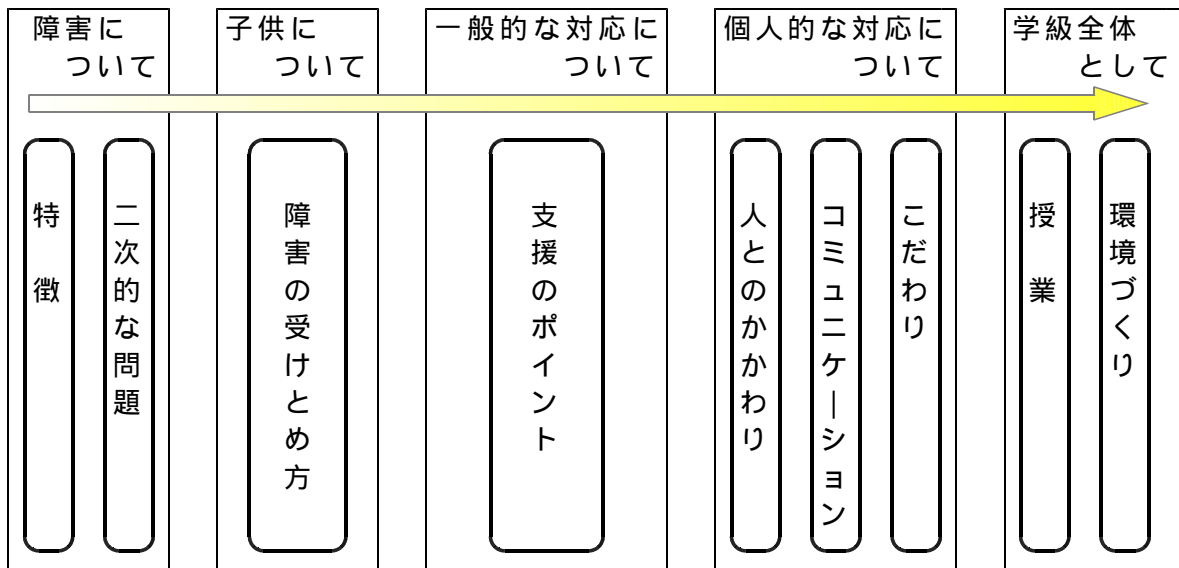


## 【高機能自閉症・アスペルガー症候群に関するQ & A】

「Q & A」の流れ



「Q & A」

**Q 1 . 高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供には、どんな特徴が見られますか？**

A . 主に、「人とのかかわり」「コミュニケーション」「こだわり」において特徴的な行動が見られます。例えば、次のような行動が目立ちます。

障  
害  
に  
つ  
い  
て

コミュニケーション

- ・相手の気持ちに共感することが難しい。
- ・相手に合わせた会話が難しく一方的に話すことが多い。

人とのかかわり

- ・冗談や皮肉といった言葉のうらの意味がわからず、言葉通りに受けとめてしまい、暗黙のルールがわからない。
- ・ひとりで遊んでいることが多く、集団に入れない。

こだわり

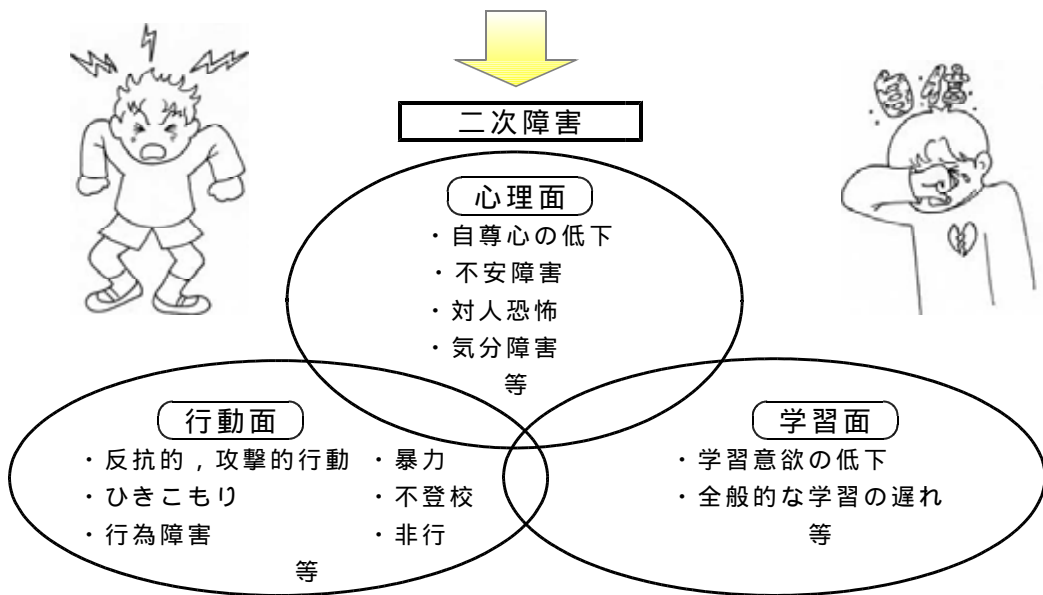
- ・状況に合わせて柔軟に考えて、行動することが難しい。
- ・とても得意なことがある反面とても苦手なことがある。
- ・特定の音や臭いに過敏に反応する。



**Q 2 . 高機能自閉症・アスペルガー症候群によって起こる二次障害にはどんなものがありますか？**

A . 二次障害とは、適切な対応がなされなかったために、自信や意欲を失ったり、自己評価を下げたりすることで、その結果、不登校や無気力になったり、暴力行為などを起こしたりすることもあります。

障  
害  
に  
つ  
い  
て



子  
供  
に  
つ  
い  
て

Q 3 . 高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供をどのような受けとめればよいですか？

A . 高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供への誤解を改めましょう。

- ・保護者のしつけが原因ではありません。
- ・愛情不足が原因ではありません。
- ・高機能自閉症・アスペルガー症候群の特徴的な行動は、わがままではありません。
- ・高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供が原因で学級崩壊が起こるわけではありません。

教師の発想の転換を図りましょう。

- ・できないことを探すのではなく、できることを見つけていきましょう。そうすることで、特徴的な行動も長所として受け取ることができます。  
(活動的, 好奇心旺盛, 自己主張ができる, 外向的で明るい, 創造性が豊か 等)

一般的な対応にいて

Q4. 高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供へは、基本的にどのような対応をすればよいですか？

A. 高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供へは、次のことを大切に対応していきましょう。

指導上の留意点

- ・高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供の言動は、「障害のために起こる言動であり、教師に反抗したり悪意があって言っているのではない。」ということ十分に納得しておきましょう。
- ・子供の矛盾点などを正面から指摘して叱責するのをやめましょう。
- ・スケジュールを予め伝えるようにしましょう。

高機能自閉症・アスペルガー症候群の子供への支援のポイント

- ・できたことに対して十分にほめましょう。
- ・共感的理解を心がけましょう。
- ・成功体験を積み重ねることを心がけましょう。
- ・むやみにしかりつけるのは絶対に避けましょう。
- ・視覚的情報を活用しましょう。

学級での支援のポイント

- ・よいところを見つけ合うような支持的風土をつくりましょう。
- ・全ての子供が大切にされていると実感できる学級経営を大切にしましょう。その様な教師の姿勢が、学級の子供に必ず反映します。
- ・一人一人の個性を認め合い、よさを生かす指導を心がけましょう。



個人的な対応について

Q5. 「人とのかかわり」が難しい子供には、どのような配慮をすればよいですか？

A. 友達のルールに入っていけない子

- ・会話におけるルールを決めてみましょう。「ねえちょっと。」を合図にするなど。
- ・クラスの子供に説明し、どうやって遊んだらいいかを伝えましょう。

友達の話を聞くことが苦手な子

- ・「自分の好きなことがみんなも好きとは限らない。」「趣味や興味、関心はそれぞれ違っている。」ということを折に触れて教えましょう。
- ・まず会話をしている友達側に立って話をきくことを伝えましょう。

状況に合わせた行動が苦手な子

- ・これから起こることを視覚的に予告し、終わりがいつか、あるいは終わった後のことも伝えましょう。

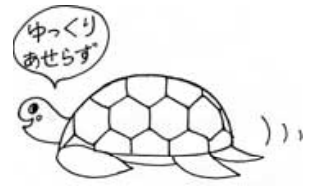
ねえ、ちょっといいかな



Q6.「コミュニケーション」が苦手な子供には、どのような配慮をすればよいですか？

A. 状況に応じた話し方が苦手な子

- ・日常生活の中で機会を捉えて、その場その場で丁寧に根気強く指導しましょう。
- ・「何がダメなのか？」「なぜダメなのか？」を理解できないので、具体的に「こういう行動をするんですよ。」というようにソーシャルスキルを教えましょう。



Q7.「こだわり」が強い子供には、どのような配慮をすればよいですか？

A. 一番にならないと気がすまない子

- ・負けた時のシュミレーションをしましょう。  
「負けることもあるよ。その時は...。」などの声かけを事前にしましょう。
- ・速いこと、勝つことだけが評価の観点ではないことを知らせましょう。  
「今日は丁寧に書けたかどうかをみるよ。」

負けたときは、大きな声で「次、がんばろう！」って言おうね。



音や臭い等に敏感な子

- ・避難訓練時、サイレンの音を嫌がりみんなと一緒に避難できない子や徒競走のスターターの音が嫌いでレースに出られない子がいます。また薬品の強い臭いや日常の食べ物の臭いにも敏感な子がいます。本人にとって嫌なことや苦手なことをみんなと同じようにさせることを避け、どの程度ならば参加できるかを本人と話し合って決めましょう。
- ・事前に苦手なものを把握し、苦手なものやことから自分を守る手だてを話し合って見つけましょう。(手やハンカチ耳栓のようなもので耳をふさぐなど。)
- ・教師側で手をつないだり、声を掛けたりして安心できるようにしましょう。



苦手なことには取り組もうとしない子

- ・「嫌なことは無理をしなくていいよ。でも席には着いてね。」とマイペースを認める。自分の苦手なことも理解してもらえると安心感をもたせることから始め、自分で目標を決め自分なりにやれることから始めましょう。



ワンポイントアドバイス

こだわりを少なくするには

こだわりは否定しないことが肝心です。こだわりが見られたら最初はそれに合わせて歩みよる姿勢が大切です。  
例えば、電車で強いこだわりがあれば、駅名から漢字を覚えるなどこだわりを生かす方向で考えましょう。

パニックをおこしたら

パニックはわがままではありません。子供によって対処法は違いますが、無理に力でおさえるのはやめた方がよいでしょう。まずその子が落ち着く場所を見つけたり、場面を変えたりして気持ちを切り替えさせることが大切です。



**Q 8 . 授業ではどのような配慮をすればよいですか？**

A . 授業では、次のようなことを心がけて支援していきましょう。

**めあての出し方**

- ・スモールステップでめあてを決めましょう。最低でも1週間以上続けて、効果が薄い場合はめあての修正を加えたり、決め直したりしましょう。

**指示の出し方**

- ・曖昧な指示の理解は難しいので指示はできるだけ短い言葉で具体的に伝えましょう。視覚的な補助手段等を取り入れると効果的です。

**指導内容の工夫**

- ・すべきことを紙に箇条書きにして示す等目で見えて理解できる手だてを工夫しましょう。効果的なほめ方、しかり方

- ・今までの生活経験でしかられたことが多い子供がいます。できるだけほめて、自分に自信をもたせましょう。
- ・よくない行動に対しては、何がよくないかなどを折に触れて教えていきましょう。(ソーシャルスキルトレーニング等)

**Q 9 . 環境づくりで大切なことは何ですか？**

A . 環境づくりでは、次のようなことに配慮しましょう。

**周りの子**

- ・「一人一人に得手不得手があり、配慮し合うことが大切。」ということをお話しましょう。その上で、つまづいている点を具体的に知らせ、本人が改善のために努力していることも話しましょう。
- ・困っている人は、誰でも助けを受けられることも伝えましょう。



**学級づくり**

- ・大声でしゃべったりすることは逆効果です。できるだけ穏やかに冷静に話をする姿勢をもちましょう。
- ・友だちのよいところをたくさん見つけられるように工夫しましょう。自分ができないことに対しては、先生や友だちが助けてくれるという信頼感も育てましょう。
- ・「間違いや失敗は誰にもある。」ということをお話し、間違いや失敗に対して笑ったり、中傷したりすることがないようにしましょう。そして、何でも話せる学級の雰囲気をつくりましょう。
- ・自分に対して肯定的なイメージをもてるよう、成功体験を重ねていけるよう配慮しましょう。そのためには、誰もが活躍できる場を工夫してつくるのが大切です。



**座席の位置**

- ・視覚的に余計なものが入らない場所にしましょう。
- ・机間指導の際に、支援をしやすい場所も考慮しましょう。
- ・手本となる子の近くにしましょう。



**気をつけなければならない教室環境**

- ・視覚的情報が優位なため、雑然とした環境の中で学習することは大変苦手です。子供によっては刺激の少ないコーナーを活用しましょう。
- ・前面黒板や掲示板に、その時間に必要のないものは貼らないようにしましょう。
- ・教室に必要な掲示物は側面や背面に貼るようにしましょう。
- ・掲示物等の色も中間色など落ち着いた色を基本に考えましょう。

